

## 2001年度 国際ユース作文コンテスト受賞者

参加国数：63 カ国

応募総数：981 作品（子どもの部 475 作品、若者の部 506 作品）

### 文部科学大臣奨励賞（最優秀賞）（各 1 点）

#### <子どもの部>

- 「地球はよびかける『命を大切にしてください』」  
蔣 蔚瓊（中国）14 歳

#### <若者の部>

- 『私の夢はきっと叶う』  
ケテェヴァン・カンデラキイ  
（ジョージア）19 歳

### 優秀賞（各 2 点）

#### <子どもの部>

- 『小さな自分の生き方、自分を生かす生き方』  
ケジャル・ハスムック（マレーシア）14 歳
- 『生命への尊重と共に』  
ニア・ヴァレンティノヴァ・ネイコヴァ  
（ブルガリア）12 歳

#### <若者の部>

- 『生命のジグソーパズルを完成させるために』  
水口 知香（東京都）17 歳
- 『尊重を越えて愛を、知識を越えて経験を』  
ホーフアン・チョウ  
（中国<米国在住>）21 歳

2001 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 文部科学大臣奨励賞（最優秀賞）

## 地球はよびかける「命を大切にしてください」

（原文）

蒋 蔚瓊（ジャン・ウェイチョン）（14 歳）

中国上海市

上海甘泉中学校 2 年生

親愛なる人間よ、私は地球です。

今日、私はあなた達の母として、あなた達に呼びかけます。

はるか昔の宇宙に私の身にはたくさんの生命が生まれました、その後、数百万年の時が過ぎて、あなた達の先祖が生まれました。私は心を込めて、すべての生き物を愛してきました。みんな、私の愛情のもとに仲良く、成長し進化してきました。人も動物も植物も自然の中で、のびのびと生きてきました。そんな時代がいつまでも続けばよかったのに、人類が繁栄し始めてから、だんだんすべてのことが変わってきました。

あなた達は絶えず戦争をくり返し、私のきれいな体はもう傷だらけなのに、あなた達はまだそのつまらない遊びをやめません。私はいつもあなた達に「他の命を苛めないで」と教えてきたではありませんか。

あなた達は飽くことを知らず、木を伐り、多くの自然な森林が砂漠になりました。もう私はそばかすだらけの体になりました。あなた達は生存したくないのですか。

あなた達は昔友達だった動物をたくさん殺して、自分達の生活だけを楽しんできました。動物達は毎日私の所にきて、苦情を訴えています。私もすっかりしわだらけになり、気性も荒くなってきました。時々、地震や洪水や火山爆発などであなた達に警告してきましたが、あなた達はちっともわからない。昔のいい子はどこにいったのですか。まさか、あなた達がこんなに醜いとは思いませんでした。

その上、あなた達はたくさんの汚水を出して、私の血液の海洋は汚れてしまいました。あなた達はたくさんの排ガスを出して、私の体温が上がり、皮膚がだんだんはげて、南極にはもう大きな穴があきました。

当然ですが、あなた達の親不幸を私は許しません。生物を殺したあげく、生態系を壊そうとしています。あなた達の自慢の知恵と理性はどこにいったのですか。

でも、あなた達はやっぱり私の子です。あなた達が災難を受ける様子は見たくありません。私は私の家にいる国家という家族達が戦争をやめ、他の困っている家族達を助けてほしいと思います。



この頃、聡明な人達の間で自然を取り戻そうという動きも出てきました。どうぞ、私をもう一度元気な体にして下さい。人類の生存と未来は自然生態系と分けることはできません。生きるために、自然環境を大切にすることはできないのです。人類は頭がいいはずですが、自然生態系に反したら、利益を得るどころか、生き続けることさえできないのです。

私は母として子どもが無事に育つのは一番うれしいことです。あなた達は私の誇る一番利口な子どもですが、あなた達だけが私の子どもではありません。私は公平に他の子どもも愛しています。あなた達も他の生き物を尊重してください。私の呼びかけにあなた達が気がついて、いつまでもこの生態系を保護し、生きていくことを願っています。

あなた達の母：地球より

2001 年度国際ユース作文コンテスト

【若者の部】 文部科学大臣奨励賞（最優秀賞）

## 私の夢はきっと叶う

（原文は英語）

ケテェヴァン・カンデラキィ（19歳）

ジョージア・トビリシ市

ブルガリア・アメリカン大学3年生

あたり一面の花畑をイメージしてみましょう。次から次へと、いろいろな植物が地面から芽を出してきます。私達がこれらをかわいがり、日光と水と愛を与えれば、緑の葉や素晴らしい花が現れます。でも、もし踏みつけたり、地面からもぎ取ったり、風にさらされるままに放置すれば、花畑はたちまち死んでしまいます。生命とは、ちょうどこの花畑のようなものです。私達の一つ一つの動作、息、想いはそれぞれの痕跡を大地に残し、雨で洗い流すこともできません。

私達は空にかかる虹や、赤ちゃんの産声、喜びの涙に溢れる目、八子を追いかけて回す子犬が、どれほど貴重なものであるかを知っています。にもかかわらず、私達はいったい何をしているのでしょうか？ いたるところに爆弾を投下する一方、オゾン層を破壊するヘアスプレーを買わないことを自慢にしています。母親を殺しながら、新しい孤児院が建つと皆でお祝いをしています。次々と動物を殺しながら、実験室をつくっては、生き残ったその種の最後の一匹を観察しています。兵器を手に勇敢に雄叫びをあげながら戦場を駆け回る一方、テレビで戦争の恐ろしさを何度となく人々に伝えているのです。どうしたら生命を尊重し大切にできるのか、私達は知らないのです。その間、地球の生命システムは、ハリケーンや洪水、地震で私達を抑えようとしています。なぜならば、地球は破滅寸前だからです。

では、生命を正しく扱う方法とは一体何なのでしょう？ 花を摘み取って子どもに与え、その子の感謝に満ちた目、偽りのない笑いと喜び、笑顔に笑顔で応える様子を見てみてください。子どもこそ、いろいろな美を尊重する方法を教えてくれているのです。彼らの目は私達に訴えています。生命を尊重することは、あらゆる存在、人や動植物同士の個性豊かな違いに対して感謝することだ、と。彼らの笑顔は教えています。ジンバブエのアフリカ人はエスキモー達と同胞であるということ。即ち私達は皆平等で、地球という惑星のために互いに責任を共有しているのだ、ということ。

そうなのです。たとえ今すぐにそのことが感じられなくとも、私達は本当にお互いを必要としているのです。新しい戦争が起こるたびに、私達は自分達のかげがえのない一部分を殺しては永遠に葬り



去っているのです。私達には地球が必要です。それでいながら新たな有毒性の煙によって空気を焼き、しかもその空気を吸っているのです。

人々は欲にまみれた戦争、自分勝手な森林伐採や愚かな動物乱獲により、何世紀もの時間を無駄にしてきました。二十一世紀に入ってもなお、誤った生き方を続け、地球上に調和をもたらすことができないでいます。今や、人類が生き残る最後のチャンス、自然や人間が互いに和解する最後のチャンスとなってしまったのです。私達は各人が内面深くに、花を手にして生きている子どもの自分を見つけ、魂の声に耳を傾け、雪のように白くピュアな平和の旗を空高くはためかせなければなりません。

私は、グルジアが内戦で荒廃していくさなかに育ちました。当時は、すべてが真っ黒で、トビリシの街の道という道には涙が溢れ、死者に対する哀しみは空飛ぶ鳥達をも怯えさせ街から遠ざけるほどでした。しかし、ビュンビュン飛び交う弾丸の中をくぐり抜けながら、私は大人になったら世界を良くしてみせる、という希望を決して捨てませんでした。私は、沼地のようになったトビリシの街を見てきました。それでも、明るい未来を信じているのです。

間もなく、かつてない明るい春の陽気が、山々から溢れてくると思います。それは、誰にも止めることのできない歴史の新たなページなのです。新たな歴史を生きる私達の世代は、心に平和、世界に調和をもたらします。悪を平和で塗り替え、兵器庫を平和を学ぶ学校へと作り変えるのです。

今この時点で私にできることといったら、誰かの考え方が変わることを願いながら、このようなエッセーを書くことだけです。秋には、大学内に平和クラブを設立する予定です。そこでは、セルビア人も、アルバニア人も、モンテネグロ人も、ブルガリア人も、マケドニア人も皆一つに結ばれます。私達はこの小さな世界を創ることによって、世の大人達に協力の仕方を示したいのです。すべてのバルカン半島の人達に対して、私達がパートナー、友人、そして仲間として共にやっていけることを証明したいのです。

## 小さな自分の生き方、自分を生かす生き方

(原文は英語)

ケジャル・ハスムック (14 歳)

マレーシア・ムラカ州

メソジスト女子中学校 2 年生

12 年間あるいはそれ以上学校に通った結果、日常生活ではそれが何の役にも立たないにもかかわらず、私達は二等辺三角形の平方根の解き方を知っています。しかし、どうやって自分を赦し人を赦したらいいか、赦しがどんなに大切かについては知りません。秋に渡り鳥が飛んでいく方角は知っていても、自分自身がどちらの方向に進みたいのかははっきりしません。カエルの解剖はしても、人間関係のダイナミズムの勉強は一切していません。「生きるべきか、死ぬべきか。それが問題だ。」というセリフが誰のものかは知っていても、答えは知りません。円周率は知っていますが、自分達が何者であるのかは分かりません。文章の図解はできても、自分自身の愛し方は分からないのです。

今の教育システムが「生命の秘密」を教えるために作られていないということは、自明のことです。学校では、生き方以外のすべてを学びます。多分、それがあべき姿なのでしょう。生命の神秘を解明し人生の意味を発見するには、自ら率先して探求してはじめて得られる勇気と決意が要るのかも知れません。

「人生の意味は何か？」という問いに先立つ疑問は、「果たして生命に意味はあるのか？」ということなのです。私にとって生命とは、何かを為し、学び、楽しむためのものです。学校を卒業してしまえば、それ以上学ぶことはない、というようなものではありません。それどころか、“Commencement” (卒業式)は単に卒業を意味するのではなく、新しい始まりを意味します。より多く学ぶことで、より多くを為し得るのであり、より多くを為し得ることで、より多くを学ぶことが出来ます。

人生もそうだと思います。人生が本当につらいものに思える時、人は自分の不運を嘆くことも出来ますが、そうではなく、怒りや恐れ、混乱や苦痛の中にありながらも、「このどこかに教訓があるに違いない。」と自分に言い聞かせることも出来ます。そうであるなら、人生の学びのプロセスを楽しみましょう。

経験だけが人生における師ではありませんし、小耳に挟んだ会話や歌の一節、あるいは本で読んだことがガイドでもありません。本当の先生は「自分自身」なのです。人生のすべての事柄を決定すべき生得の権利と義務をもつのは自分自身なのです。注意深く耳を澄ませてみましょう。内なる声が聞こえ、感じとれます。それは自分の内なる先生の声です。一番大きな声ではないかも知れませんが、最も堅実で、忍耐強く、そして永続的なものではないかと思えます。

今、私達はだれしも、神の子として、動物や植物も含めてすべての生命を尊重しなければなりません。一匹の小さな昆虫から一頭の巨大な象まで、一枚の小さな草の葉から一本の巨大なセカイヤメスギまでも。それら一切は神の創造物であるが故に尊重されるべきです。すべての生命を尊重する真の方法は、悪い動機をあらゆる行為の背後に隠した偽善者になることや、耳に心地よい良い言葉を発することではなく、単純に「助けよ、そして傷つけるなかれ」、「すべてを愛せよ、そしてすべてのために献身せよ」、「シンプルライフと気高き想念」という生命の原則を遵守することだと思います。

ここで、どのようにすれば調和して生きることが出来るのか、という疑問が湧き起こります。それには、私もあなたも、また書物も答えることが出来ません。その答えは、神が宿る自らの心の底、内なる自分自身からのみ返ってきます。世界が平和になるためには、私達が、常に深い思いやりを持ち、協力し合い、すべての生きものに対して気遣い、「自分が先に」よりも「あなたが先に」という思いを持ち続けることがまず必要だと思います。私達は、無条件の愛を与えることにより、無条件の愛を受け取り、その結果すべての生命が、分かち合い慈しみあうための私たちの「財産」であると感じるべきだと思います。

もしあなたが他人との平和を望むのであれば、争うべきではありません。自分の道を歩むべきです。自分の人生を歩みつつも、社会の一員としての自覚を持ち続けるべきです。もし誰かがあなたと一緒に歩むのであれば、それはそれで良いのです。もしあなたが、ある時期独りで歩むのであれば、それでも良いのです。もし何処かで起こっている事柄が気に入らなければ、そこを離れば良いのです。自分自身の中に移動可能な楽園を保ち続けるのです。他人と争おうという気持ちが表に現れないように、その平和な場所に自らを移すべきです。自分自身や他人に対抗していない時、あなたも世界も既に平和の中にいるのですから。

私達一人一人がこの地球上に世界平和を実現させるための役割を果たすならば、「戦争」、「争い」、「抵抗」という言葉はもはや存在しないでしょう。ある人々は、「もし自分だけが世界平和に目覚めたとして、どれ程の意味があるのか？ 私は地球上の全人口の1%にも満たないのですよ。」などと言うかも知れません。しかし、我が親愛なる友よ、60億の人口を構成する私達の一人一人が世界平和に向かって進み始めれば、この地球は必ずや「地上天国」として最高の住み家になるであろうことを忘れないで下さい。

我が地球の友よ、この私のエッセーは、一まとめにして、整理された形であなたにお渡しすることは出来ません。と言うのも、率直に言って、生命も、知識も、愛も、平和もそのように出来るものではないからです。これらはすべて長い時間を必要とするプロセスであり、進行中のプロセスに整理された終わりはなく、あるのは移り変わりのみなのです。

しかし、この「旅」を通して、私の気高い思いを皆さんにお伝えすることが出来たという点では、価値があったと思います。私の「旅」にお付き合い頂き、あるいは、むしろこのたった一つしかない素晴らしい地球上に平和をもたらそうという皆さんの「旅」に参加させて頂き、有難うございました！

## 生命への尊重と共に

(原文は英語)

ニア・ヴァレンティノヴァ・ネイコヴァ (12 歳)

ブルガリア・バルナ市

人間にとって、生命とは最もかけがえのないものです。だから、生命を愛し、尊重しなければなりません。世の中には、自分の人生をどう完うするのかを学ばない人達があります。そのような人達は、単に自分の生命を大切にしなかったり、人間には生命が幾つもあると、今生はこのように生き、他の人生は別の生き方が出来るとでも思っているだけなのかも知れません。

人間は自分の置かれた環境の中で自らの人生を作っていきます。人生とは、自分自身が主人公のおとぎ話のようなものです。人は自分の運命を変えることは出来なくても、その運命に順応して将来の人生を創造することは出来るのです。運命とは不思議なものです。私達に多くの浮き沈みを味わわせ、私達の感情に試練を与えます。その感情の一つが生命に対する愛なのです。

それでは、私の二人の友人達に実際に起こった出来事をお話しましょう。これら二つの出来事では、それぞれの友人の生命に対する態度の違いが鮮明に表れています。最初は、いとこのクリストに起こった出来事です。彼は、従軍中のある時、自分の銃を清掃していたのですが、銃の操作を誤って自分の腹部を撃ち抜いてしまったのです。彼を救うため、医師達による懸命の治療が連日連夜続けられました。生存する可能性が非常に低かったにも関わらず、医師達はほとんど不可能な状況から彼の生命を救ったのです。私のおじとおばの喜びは計り知れない程大きいものでした。と言うのも、もう一人の息子は盲目で、どんな親にとってもそうであるように、彼らにとってこれは大きな悲しみだったからです。

あの大事故で、いとこは一命こそ取り留めたものの、重傷を負ったため多くの臓器が傷つき、その内の幾つかは摘出されなければならなかったのです。このため、彼は何も仕事をする事が出来ませんでした。恐らく、これが彼を麻薬に走らせたのだと思います。麻薬に一度手を出すと、二度目があり、やがて彼は麻薬常習になりました。彼は家族の手伝いをする事もなく、毎日新たな問題を引き起こしていました。

生き延びるチャンスを得たことを喜ぶ代わりに、彼はこのチャンスに感謝をすることも出来ず、ひたすら自分の生命をもてあそび続けたのです。確かに彼は生き延びることは出来ましたが、果たして二度目のチャンスはあるのでしょうか？

彼の麻薬を辞める意志力、そして彼の身体自体も非常に弱く、彼がどれだけこの毒に耐えることが出来るのかは、誰にも分かりません。

もう一つの出来事は、私の友人に起こりました。彼の名前はスヴェトランです。10代の若者の彼は山登りが好きでした。ある競技会の時、事故が起こりました。彼は、崖から落ちて体をひどく打ち、両足が麻痺してしまったのです。そのとき以来、彼は車椅子に乗っています。

彼は、見事にこの大きな困難を乗り越え、自らに向かって、これからも生き続けるのだと言い聞かせました。彼は学校を卒業し、いつも仕事に励んでいました。再び、彼は卓球、車椅子バスケットボールなど、他のスポーツにも取り組みました。彼は、とにかく自分の人生が好きだったのです。彼は輝いていて、とても知的で、ユーモア溢れる人です。

私は、生命を愛する人と愛さない人、生命を尊重する人としらない人の違いを皆さんにお伝えするため、この二つの出来事をお話しました。生命を尊重しない人は、自らの生命を尊重しないばかりか、周りにいる人々をも尊重することが出来ません。

生命を尊重することができてはじめて、人々の間に調和は生まれるのです。自分の生命だけでなく全ての生命を尊重しなければなりません。しかし、残念ながら、このような状況がどこにでも存在する訳ではありません。実際、誰とも、何とも調和できない人々がいるのです。時として、動物の方が、もっと調和することが出来るのです。人はすべてと調和しなければなりません。周りの人々、植物、動物。そうすれば、人生もより楽しく快適になるのです。

私達は人生を完うしなければならないと思います。人生は一回しかないのです。だから、すべてと調和して生きなければならないのです。今を幸せに生き、将来もそう生きられるよう、これから先も人生を続けなければならないのです。私達には、生命が必要であり、それを尊重しなければならないのです。

## 生命のジグソーパズルを完成させるために

(原文は英語)

水口 知香 (17 歳)

東京都

慶應義塾大学附属湘南藤沢高等部 2 年生

自分がどうしてここにやって来て、何の目的のために存在しているのだろうか、と私は不思議に思います。だからこそ、あらゆる生きものの存在は奇跡なのだと思います。この世界にこれほど多くの奇跡が存在しているのは、信じられないことです。これは夢か何かの間違えではないか、と調べてしまう程です。

私にはこれらの疑問に対する答えが分かりません。恐らくこれからも分からないでしょう。多分その答えは謎に包まれたままなのでしょう。あるいは、もしかして答えは無いのかも知れません……。私には分かりません。

生命について考え続けるかぎり、私はいつもその答えを探し求めていくでしょう。

生命はすべての始まりです。生命はこの世界を経験するために私達に与えられたチャンスです。この存在のチャンスを持っていること自体、幸せなことです。だから、生命は私達にとって最も大切なものである、と私は信じているのです。

しかし、最近、人々はこの最も基本的なものの、即ち生命の価値をなかなか見いだせずにあります。目の前に横たわるものの豊かさに目がくらみ盲目的になってしまいました。生命こそ最優先であり、ものの豊かさは二の次のはずです。戦争はこの順序が逆転した時に起こるのです。公害や動物に対する虐待や殺傷、森林伐採は、人々がものを所有することが生きる目的になった時に起こるのです。

私達は、他の生きもの達のこうしたすべての犠牲は、自分達の生活に寄与するものと考えていました。しかし、私達は実際どれ程を得たのでしょうか？公害はオゾン層を破壊し、野生動物を殺し、病気を引き起こしました。森林伐採により、地球温暖化も進行し、異常気象が引き起こされました。動物の乱獲により、自然界のバランスは崩れました。そして、すべては私達に跳ね返り、私達の生命を脅かそうとしています。これは悲しく皮肉なことです。自分にとって良かれと思って行った行為が、結局、自分達の生存を脅かす深刻な問題をもたらし、また他の生きもの達の生活にも支障を与えてしまっているのです。

地球は巨大なジグソーパズルのようなものです。一片一片は一つ一つの生命です。地球はすべての片（ピース）が揃って、初めて美しい絵を描き出すのです。

しかし、人々は間違いを犯してきました。それは、自分達こそが地球の絵を成す唯一のピースであるという思い込みです。どうして人間が互いに手を携えることすら出来ないような中で、人間だけで地球が成り立つのでしょうか？そして、生命の価値に気付かない人が多い中で、どうしてみんなが一つにくっつくことが出来ましょうか？

人々は自分達をより一層輝かせるために、他のピースを押し退けてきました。しかし、ちょうどジグソーパズルのように、この地球絵はそれぞれのピースがばらばらでいる限りは、決して完成することはありません。

私達は他の生きもの達と手を携えなければならないのです。私達は、それぞれの生命に重さの違いはないのだということに気付かなければなりません。この絵の中のピースはどれも同じ重さなのです。たとえそれがどんな部分であろうとも、それぞれのピースには存在価値があるのです。もしピースが無くなってしまっても、替わりのピースは無く、絵には穴が残ってしまいます。他の生きものよりも大切な生きものなど存在しないのです。一つだけで生きられる種などありません。私達はこの地球上で共同生活をしているのです。

すべての生命のバランスを保つためにも、私達はこの複雑な生命のジグソーパズルを完成させなければなりません。このパズルが完成して、初めて私達は生命の美しい調和の創造に成功したと言えるのです。

一つの大事なことは、生命の重さに気付くことです。しかし、私達は死に直面して、初めて生命の重さを知るような気がします。死に直面した人々が、突然コンクリートの隙間で一生懸命伸びようとしている雑草の姿に美しさと強さを発見し、また、すべての生きものの中に表しようのない喜びを感じる、としばしば聞きます。これらの人々にとって実際それぞれの生命の重さに違いはありません。彼らはただ生きているだけで嬉しいのです。

しかし、これはすべての人々が完全に認識できることではありません。私達がとることの出来る最初のステップは、分かち合うことだと思います。「分かち合い」は未来にとってキーワードになることでしょう。まず始められる分かち合いは、私達人間同士の分かち合いです。

私の夢は、「国境なき医師団」のメンバーになることです。「国境なき医師団」は、発展途上国で医療支援の活動を行うプロのボランティア集団です。メンバー達は自らの能力や生命を他の人々と分かち合っています。彼らは人間の部分のジグソーパズルと一緒に組み合わせています。いつも私は、国家同士が医療援助を施し合う必要があると思っていました。この団体はまさにそれを行っているのです。私も、「国境なき医師団」の一員として、自分の能力と生命を人々と分かち合うことによって、生命の重さを理解し、人々を結びつけることに貢献出来るはずです。

自分がこの世に誕生した目的が何であるかは分かりません。しかし、私は他の人々の生命を救うために自分の一生を捧げたいのです。と言うのも、私は生きていることが好きだし、この世に生まれたことに感謝しているからです。他の人々にもそのような喜びの気持ちを持ってもらえることを望んでいます。地球の宝物である「生命」を守るための活動を支援をすることで、私は自分が受けた生命に対して感謝を表し、この与えられたチャンスをフルに生かすことが出来るのではないかと感じていま

す。きっと、自分のピースが、地球というジグソーパズルの一部分として担っている役割を誇りに思えることでしょう。

## 尊重を越えて愛を、知識を越えて経験を

(原文は英語)

ホーファン・チョウ (21 歳)

中国<米国ペンシルバニア州在住>

スワースモア大学 3 年生

中国の諺に「幸福な時は、大抵、そのことに気が付かないものだ」というのがあります。私は、誰かが私達の家を訪れる時、再び新たな目でこのことを発見するのです。大都市香港の中であって、私の両親は郊外の、目の前は海、後ろは森林という環境に住むことを選択しました。私は、両親が、私達兄弟を犬やパイヤの木々に囲まれた中で育ててくれたことに感謝しています。この自然との触れ合い体験を通して、私はこの恩恵を是非とも他の人々と分かち合いたいという気持ちになりました。今年の夏、私は「持続可能な開発」村の建設を手伝う仕事をしています。私の孫世代の子ども達が、そのような環境が残る世界に住めるよう望んでいます。

生命の尊重は最初の大事な一歩ですが、更にその上を越えなければならない、と私は思います。尊重ということばには崇敬の色合いがありますが、そこには距離が暗に示されています。友人の決意を尊重するよういわれる場合、あるいは近所の所有物を尊重するよういわれる場合などは、結果的に、これらへの干渉を控えるようにいわれているのと等しいのです。このように自制することは、敬意を伴う場合もあるかも知れませんが、いずれにせよ干渉を示唆しているのです。しかし植物や動物、そして人々が周囲で傷つけられ殺されているのを無視することは出来ないのです。

生態系のサイクルや食物連鎖について、教科書を読むだけでは十分ではありません。子ども達（そして大人達も）は、自然の中に入って行って、生命とのつながりを「感じる」必要があります。私は、かつて中国の非常に美しい地域を訪れ、その美しさに圧倒されたことがあります。黄土色と赤みがかかった土地の谷間に生息する若松、高くそびえる青空の下に点在する真っ黒なインク色の岩々……。私は大きな愛に満たされていました。私は世界の広さを、そして人間は巨大な網の中の一糸にしか過ぎないのだ、ということを実感しました。世界が完全なものに感じられ、私は、そこには重要な意味があるのだということ「確信」しました。そして、自分がその一部となっていることがとても嬉しく感じられたのです。多分、あなたも自分が訪れた場所の美しさに感動したことがあり、私の言いたいことはお分かりでしょう。

私はその土地に恋をしました。そして、大学に進学する前の一年間を使って、近辺のある田舎の村で教員をしました。その好奇心旺盛でオープンな子ども達は、私に多くのことを教えてくれました。都市部では物事がとても複雑になってしまうことがあります。私はそこで、食べ物に満たされ、学

校に行くことが出来るというようなシンプルなことに感謝することを学びました。私はそれまでにな  
いほど、自分が生きているということを実感しました。

子ども達と私は、丘を駆けずり回っては、鳥を見つけ、木々を描きました。私達は、人々が漁業の  
ために小川をどう汚してしまっているのかということについて、話し合い、子ども達に考え始めさせ  
ました。私は、子ども達にとって、教員であり友人でした。教育者というのは情熱的で、自ら教える  
ことについて良きモデルとなり、教え子達のニーズやアイデアに耳を傾ける必要がある、と私は思  
います。最近、教育心理学者達は、学びというのは本物、且つ双方向のものでなければならないと  
認めるようになってきました。私は教え子達から本当に多くのことを学びました。そして、今も学び続  
けています。ちょうどこの間、教え子の一人が、生命の意味について相談するため私に手紙を書いて  
きました。

私は、そこが出発点なのだと思います。人々のために、自分を取りまく命に対する愛と好奇心を実  
感出来るような環境を創っていく必要があると考えています。そのため、現在、私は自分の大学で「平  
和・紛争学」を専攻する第一号の学生になりました。既存のプログラムには私が学びたい分野が含ま  
れていなかったの、自分自身でこの専攻を創り出しました。

私にとって、平和とは、それぞれの人間が自分の潜在能力を最大限に発揮することが出来る状態を  
指します。教育はそれを開拓する手段です。「馬を水場まで連れて行くことは出来ても、水を飲む  
ことは出来ない」という諺を聞いたことがあると思います。教育とは、まさにそのオプションを「提  
供する」ものなのです。子ども達や大人達が自然の愛と触れ合いを一度でも体験すれば、必ずやこの  
美しい小川の水を「飲みたくなる」であろう、と私は信じています。

生命の本当の素晴らしさを実感し、生きものを殺そうと思わなくなるような体験を人々に提供する  
必要があります。私達は、鏡の中を覗き込み、自分達が潜在的にいかに美しく、知性に溢れ、善良で  
あるかを認識する必要があると思います。どこから始めましょうか？まずは、自分自身が平和になる  
必要があります。私は、自分自身を理解し、自分が周りの生きもの達とどう接していくかを理解しな  
ければなりません。私は、周りの人々をより深く愛さなくてはなりません。私は、食べ物から自分の  
存在まで含めて、自分自身が恵まれていることに感謝しなくてはなりません。もし私自身が平和な人  
でいるならば、人々もそれを見て平和でいることの素晴らしさを知り、私と一緒に歩いてくれるの  
ではないでしょうか・・・でも、私自身、まだ努力を続けているところです。

あなたも私の仲間になりませんか？